



2018年5月9日

各位

会社名 株式会社Ubicomホールディングス
 代表者名 代表取締役社長 青木 正之
 (コード番号: 3937 東証第一部)
 問合せ先 執行役員コーポレート本部長 豊福 政博
 (TEL. 03-5803-7339)

通期業績予想（連結・個別）の修正および営業外収益（為替差益）の計上に関するお知らせ

当社は、最近の業績動向を踏まえ、2017年5月12日に公表した通期業績予想（連結・個別）を修正しましたので、お知らせいたします。また、2018年3月期（2017年4月1日～2018年3月31日）において、営業外収益（為替差益）を計上いたしますのであわせてお知らせいたします。

記

1. 2018年3月期通期業績予想の修正について

(1) 連結業績予想数値の修正（2017年4月1日～2018年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	3,527	356	351	214	19.25
今回修正予想(B)	3,208	322	355	212	19.08
増減額(B-A)	△319	△33	3	△1	
増減率(%)	△9.1	△9.5	1.0	△0.6	
(ご参考) 前期実績 (2017年3月期)	2,992	237	289	112	10.60

(注) 当社は、2016年10月1日付で普通株式1株につき2株、2017年4月1日付で普通株式1株につき2株、さらに2017年10月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。これに伴い、2017年3月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり当期純利益金額を算定しております。

(修正の理由)

・売上高

グローバル事業における為替相場が円高に推移したことによる外貨建て売上高の円換算額の目減りおよびグローバル事業における客先都合による受注の期ずれ等により、2018年3月期の売上高は2017年5月12日公表の業績予想を319百万円下回る3,208百万円となる見込みです。

・営業利益

メディカル事業子会社の業績は予想を上回ったものの、前述「売上高」における要因に加え、新規取引先開拓、新規事業開発、新規ソリューション開発、ならびにコーポレートガバナンス、IR・PR活動、決算・開示等の体制強化のための積極的な投資を実行したことに伴い、同業績予想を33百万円下回る322百万円となる見込みです。

・経常利益

経常利益については、フィリピン国内のIT需要の高まりによる関連会社における受注増にともなう、持分法による投資利益の増加、および為替相場が円高に推移したことによる為替差益の計上により、同業績予想を3百万円上回る355百万円となる見込みです。

・親会社株主に帰属する当期純利益

メディカル事業子会社における業績好調に伴う税負担の増加に伴い、親会社株主に帰属する当期純利益は前回発表予想を1百万円下回る212百万円となる見込みです。

(2) 個別業績予想数値の修正 (2017年4月1日～2018年3月31日)

	売上高	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	916	22	71	6.41
今回修正予想(B)	1,046	6	70	6.30
増減額(B - A)	130	△15	△0	
増減率(%)	14.2	△69.8	△1.4	
(ご参考) 前期実績 (2017年3月期)	992	21	57	5.45

(注) 当社は、2016年10月1日付で普通株式1株につき2株、2017年4月1日付で普通株式1株につき2株、さらに2017年10月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。これに伴い、2017年3月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり当期純利益金額を算定しております。

(修正の理由)

・売上高

2018年3月期の売上高は、グローバル事業の開発案件の受注の堅調な推移、およびメディカル事業子会社の業績好調に伴う、受取配当金の増加により、2017年5月12日公表の業績予想を130百万円上回る1,046百万円となる見込みです。

・経常利益

経常利益は、新規取引先開拓、新規事業開発、ならびにコーポレートガバナンス、IR・PR活動、決算・開示等の体制強化のための積極的投資を実施したことにより、同業績予想を15百万円下回る6百万円となる見込みです。

・当期純利益

メディカル事業子会社の業績好調に伴う連結納税における単体の税負担軽減により、当期純利益は、業績予想を0百万円下回る70百万円となる見込みです。

2. 営業外収益 (為替差益) の計上

2018年3月期第3四半期連結累計期間(2017年4月1日～2017年12月31日)において、7,122千円の為替差損を計上していましたが、その後の為替相場の変動により、2018年3月期においては28,498千円の為替差益を計上いたします。これは、主に海外子会社の外貨建債権債務の評価替えによるものであります。

(注) 上記の業績予想数値は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。